

# あ 翔

あめつちほしそらやまかはみぬたに  
くもきりむろこけひといぬうへすゑ  
アメツチホシソラヤマカハミネタニ  
クモキリムロコケヒトイヌウヘスエ  
天地星空山川峰谷雲霧室苔人犬上未  
安以字衣於加幾久計己左之寸世曾太  
ABCDEFGHIJKLMNabcdefghijkl  
mn0123456789,!.?\*&%

38Q / 50H

或曇った冬の曰暮である。  
私は横須賀発上り二等客  
車の隅に腰を下して、ぼ  
んやり発車の笛を待つて

22Q / 33H

或曇った冬の曰暮である。私  
は横須賀発上り二等客車の隅  
に腰を下して、ぼんやり発車  
の笛を待つていた。とうに電  
燈のついた客車の中には、珍  
らしく私の外に一人も乗客は

16Q / 27H

或曇った冬の曰暮である。私は横須賀発  
上り二等客車の隅に腰を下して、ぼんや  
り発車の笛を待つていた。とうに電燈の  
ついた客車の中には、珍らしく私の外に  
一人も乗客はいなかった。外を覗くと、  
うす暗いプラットフォームにも、今日は  
珍しく見送りの人影さえ跡を絶って、唯、

28Q / 38H

或曇った冬の曰暮である。私は横  
須賀発上り二等客車の隅に腰を下  
して、ぼんやり発車の笛を待つて

20Q / 30H

或曇った冬の曰暮である。私は横須賀発上り二  
等客車の隅に腰を下して、ぼんやり発車の笛を  
待つていた。とうに電燈のついた客車の中には、  
珍らしく私の外に一人も乗客はいなかった。外  
を覗くと、うす暗いプラットフォームにも、今

16Q / 24H

或曇った冬の曰暮である。私  
は横須賀発上り二等客車の隅  
に腰を下して、ぼんやり発車  
の笛を待つていた。とうに電  
燈のついた客車の中には、珍  
らしく私の外に一人も乗客は